



代っ子通信

令和7年6月9日
<第11号>
校長 平塚智康

熱く盛り上がった 菖蒲湯祭り！

加賀温泉郷に初夏の訪れを告げる風物詩「菖蒲湯祭り」が6月4日～5日に行われました。近年、五十音図を作ったことで全国的にも知られるようになった、平安時代の僧・明覚上人が初代住職の「薬王院温泉寺」は、中世の頃に加賀・越前地方における密教の中心道場でした。その温泉寺に修験者が集まり、厄年にあたる若者の厄払いのために菖蒲を刈って、俵に詰め、無病息災を祈願したのが、菖蒲湯祭りの始まりとされています。菖蒲の詰まった俵を引きずり回して湯に投げ込み、その湯につかって邪気をはらう勇壮な儀式は、現代にも受け継がれています。

私は歴史が大好きです。5月の休日、薬王院や服部神社、そしてその周辺の石碑や記念碑を改めて探索して歩きました。そして、この2日間じっくりと菖蒲湯祭りを体験しました。そんな中で、菖蒲湯祭りは、山代の歴史や文化が脈々と受け継がれている大切な行事・お祭りであると思いました。そして、お祭りにかける、町内の方々の熱い思いをひしひしと感じることができました。

文部科学省の学習指導要領の社会編には、小学校社会科の学習指導内容について、次のように指導事項が示されています。

- ・「県内の文化財や年中行事は、地域の人々が受け継いできたことや、それには地域の発展など人々の様々な願いが込められていることを理解すること。」
- ・「歴史的背景や現在に至る過程、保存や継承のための取組などに着目して、県内の文化財や年中行事の様子を捉え、人々の願いや努力を考え、表現すること。」

私たち山代小学校の教員は、菖蒲湯祭りが、単なるお楽しみのお祭りではなく、地域の歴史や文化、そして地域の人々の様々な願いや思いについて学ぶことができる、貴重な地域教材であるという認識を持たなくてはいけないし、その教材を使って子どもたちにしっかりと学ばせなければいけません。前号で紹介した3年生の総合的な学習、山代音頭の練習・輪踊りへの参加、4・5・6年生の菖蒲刈り・代っこみこしなどの取組は、とても意味のある教育活動だし、貴重な体験学習の場でもあると私は思っています。これからも、山代小の子どもたちに、菖蒲湯祭りの歴史や、そこに込められた地域の人々の願いや努力に気づかせるような学習を充実させていきたいと思います。



<3年生 山代音頭披露>



<3年生 代っこみこし>

3年 ○○ ○○

わたしのめあては、わおどりのとき、指先を見て、きれいにおどることです。本番では、めあてどおり、指先を見て、きれいにおどれました。れつはちょっとずれたけど、自分もみんなもえがおでおどれたり、おみこしも「わっしょい」と大きな声でいえてよかったです。みんながえがおでよかったです。なあと思いました。

3年 ○○ ○○

山代おんどの時に、教えてもらったことに気をつけておどれました。ゆび先までいしきして上手におどれました。みこしの時、かたがいたかったけど、がまんしてずっともてました。そして、大きな声でずっとわっしょいと言いました。アナウンスの時に、まちがえずに言うことができました。お祭りをもりあげてよかったです。

3年 ○○ ○○

やってみて、さいしょはきんちょうしたけど、だんだんなれてきたのでよかったです。おどりがせいこうしてよかったです。れんしゅうのときは、みじかいからゆだんしていたけど、ほんばんになったら、いろんなおきゃくさんが見てたのでとてもきんちょうしました。

3年 ○○ ○○

山代おんどのれんしゅうに、テレビ局の人が来たとき、わたしは「本番は千パーセント出せるようにながんばりたいです。」といいました。本番では、それがばっちりできました。おみこしのとき、自分でもびっくりするような声が出せました。やってみてきんちょうしたけど、さいこうにひろうできたと思いました。



<各教室にも菖蒲を吊るして邪気払い>



<4・5・6年生 代っこみこし>



子どもたちの感想からも、充実感や達成感が伝わってきます。3年生の総合的な学習は、この後も続きます。ともすると見落とされがちな、菖蒲湯祭りに込められた山代の人々の願いや思い、その継承のために努力している人たちの姿にしっかりと目を向け、考えさせていきたいと思います。

今年も、山代青年会の皆様にお願いして、山代小の玄関・各教室用の菖蒲飾りをいただきました。玄関・各教室に菖蒲を飾り、しっかりと邪気を払い、子どもたちと職員の無病息災を祈念しました。山代青年会の皆様、本当にありがとうございました。

また、PTA役員の皆様、巡回ボランティアにご協力いただいた保護者の皆様、おかげさまで大きなトラブルもなく、子どもたちも菖蒲湯祭りを存分に楽しめたようです。改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。今後とも温かいご支援・ご協力をよろしくお願ひいたします。